

## 1 - 1 1973年6月17日の根室半島沖地震について (第3報)

On the Earthquake off Nemuro Peninsula, June 17, 1973

(Part 3)

気象庁地震課・地震活動検測センター  
Seismological Division and SAMC,  
Japan Meteorological Agency

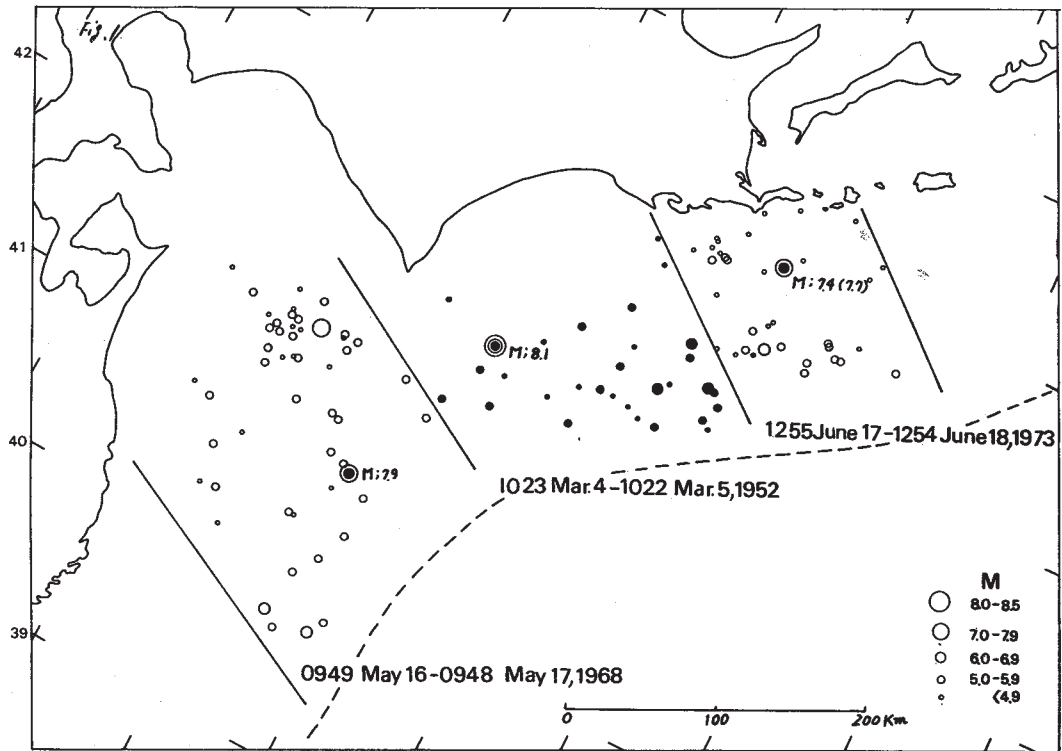
今回の根室半島沖地震の余震域と1952年の十勝沖地震の余震域との間の空白域については第2報<sup>1)</sup>でも報告したが、その後さらに詳細な資料を掲載して欲しいという要望が強いので、1973年の根室半島地震と同じ走時表を使用して、電子計算機によって1952年の十勝沖地震の余震を再調査した。第1図、第2図がこれであるが、本震発生後24時間の余震分布も、10日間の分布も、大地震の余震分布の境界はいずれも画然としている。従って、地震の発生前に考えられていた根室南東沖の seismicity gap は、今回の根室半島沖の地震によって殆んど埋められたとみてもよいであろう。

大地震は再来期間が長いので、新しい観測データで隣接して発生した大地震の余震域を調べることがむづかしく、このようなことが明らかになったのは北海道南方海域が始めてである。

また、第3図は水路部<sup>2)</sup>で今回新しく調査された釧路沖の海底地形図であるが、それに第2図で示した1952年の十勝沖地震の本震とその後10日間に発生した余震を記入したものである。これによると、本震は十勝沖の深海平坦面の南の縁辺の比較的急な斜面域に発生し、余震も大部分その斜面域に分布し、釧路海底谷の東側にも広く分布して発生していることがわかった。

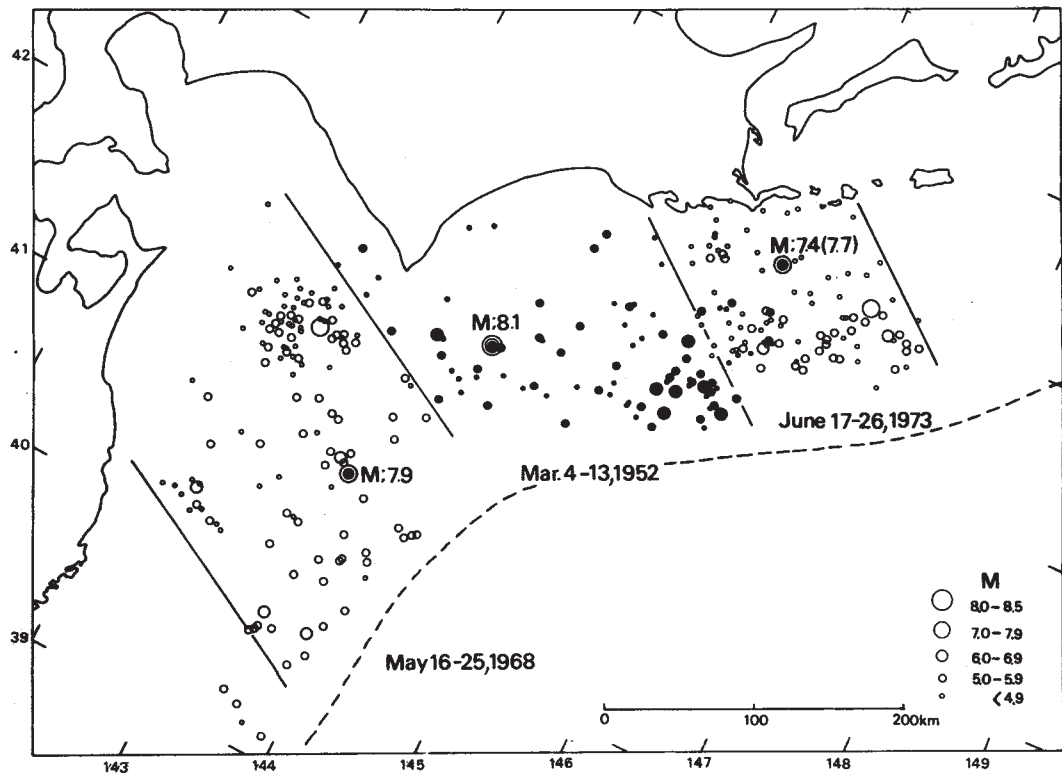
### 参 考 文 献

- 1) 気象庁地震課・地震活動検測センター (1974) : 1973年6月17日の根室半島沖地震について (第2報), 地震予知連絡会報 11 卷 1 - 6
- 2) 海上保安庁水路部 (1974) : 釧路沖の海底地形・地質構造・地磁気全磁力, 地震予知連絡会報第 11 卷, 24 - 30



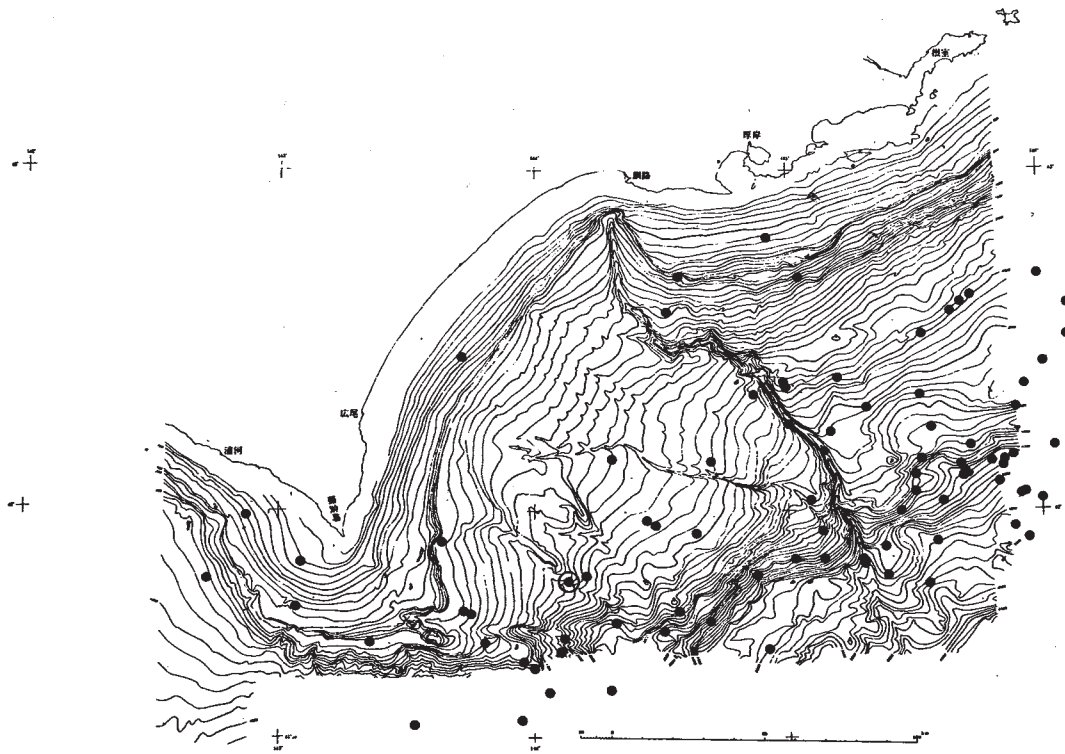
第1図 本震後24時間に起こった北海道南方海域の大地震の余震域

Fig. 1 Aftershock regions of 24 hours of large earthquakes off the southern part of Hokkaido



第2図 本震後10日間の余震域

Fig. 2 Similar regions of 10 days



第 3 図 釧路沖海底地形図と十勝沖地震の本震後 10 日間の余震域

Fig. 3 Bathymetric chart off Kushiro and the aftershock region of 10 days of the Tokachi - oki Earthquake, 1952